

受験番号	
------	--

令和 6 年度
摂食嚥下障害看護認定看護師教育課程(B 課程)
受講試験問題

専門科目 I

実施日 : 令和 5 年 12 月 5 日 (火)

実施時間 : 9:30~10:20 (50 分間)

<注意事項>

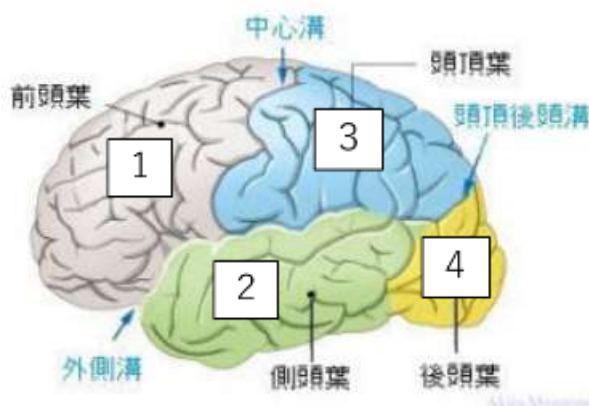
1. 試験開始の合図があるまで、問題冊子を開かないでください。
2. この冊子の本文は、8 ページ 30 題です。
3. 印刷不鮮明な箇所および脱落などがあれば、ただちに申し出てください。
4. 解答用紙は 1 枚です。解答はすべて解答用紙の指定された解答欄に記入してください。
5. 問題用紙と解答用紙の受験番号欄に受験番号を記入してください。
6. 試験中は、退室することはできません。
7. 問題用紙は試験終了後に回収しますので、持ち帰らないでください。

問題1 問 1～10 の各設問に対する答えを一つ選び、解答用紙の所定の欄に番号を記入してください。

【問 1】 脳神経について正しいのはどれか

1. 脳神経は主に中枢神経である。
2. 脳神経は左右 10 本ずつある。
3. 脳神経核があるのは脳幹である。
4. 脳神経には感覚のみを受け持つ神経はない。

【問 2】 Broca 失語はどの部位の障害で生じるか。



【問 3】 脳の機能局在で正しいのはどれか。

1. 側頭葉は感覚情報の統合と認知に関与する。
2. 後頭葉には随意運動の調整にかかわる神経核群がある。
3. 視床下部には自律神経や内分泌系の中枢として働いている。
4. 小脳は意識水準の調整や生命維持の機能を持っている。

【問 4】 顔面神経の機能はどれか。

1. 舌後方 1/3 の味覚
2. 表情筋の運動
3. 咽頭の挙上運動
4. 肩の挙上

【問 5】 先行期の障害はどれか。

1. 片側半分の食物を残す。
2. 食塊が咽頭へ送り込めない。
3. 嚥下反射が誘発されない。
4. 唾液が流れでる。

【問 6】 プロセスモデルの第Ⅱ期移送において正しいのはどれか。

1. 重力を用いる。
2. 咀嚼中には起こらない。
3. 開口中に起こる。
4. 食物を中咽頭へ送る。

【問 7】 嚥下反射の中枢機構において正しいのはどれか。

1. 遠心性神経を介して嚥下中枢に伝えられる。
2. 随意的に嚥下関連筋群の運動が起こる。
3. 嚥下中枢は視床下部にある。
4. 神経伝達物質としてサブスタンス P が重要である。

【問 8】 人工濃厚流動食について正しいのはどれか。

1. 成分栄養剤は窒素源がタンパク質の形で配合されている。
2. 半消化態栄養剤は成分栄養剤より浸透圧が低い。
3. 消化吸収能が低下している場合は半消化態栄養剤が適している。
4. 人工濃厚流動食のタンパク源は天然食品由来である。

【問 9】 副交感神経の働きはどれか。

1. 瞳孔散瞳
2. 気管支拡張
3. 腸管運動促進
4. 血圧上昇

【問 10】 偽性球麻痺について正しいのはどれか。

1. 輪状咽頭部が開きにくいことが多い。
2. 両側の皮質延髄路がどこかで障害された場合に生じる。
3. 後下小脳動脈や椎骨動脈の閉塞していることが多い。
4. 一側性的大脑病変である。

問題2 問 11～問 30 の各設問に対する答えを一つ選び、解答用紙の所定の欄に番号を記入してください。

【問 11】 咽頭に関する内容で間違っているのはどれか。

1. 上、中、下の3部位で構成される。
2. 喉頭の後方を下咽頭と呼ぶ。
3. 三叉神経の支配を受ける。
4. 消化器系の基本的構造を有する。

【問 12】 II型呼吸不全について正しいのはどれか。

1. CO₂の排出は正常に保たれている。
2. 主な原因疾患には間質性肺炎がある。
3. PaO₂が 60Torr 以下、PaCO₂が 45Torr 以下を示す。
4. 肺胞低換気によって生じる。

【問 13】 嚥下障害の悪化要因ででないのはどれか。

1. カプサイシン
2. 加齢
3. サルコペニア
4. 気管カニューレ

【問 14】 加齢による気道防御の低下要因で正しいのはどれか。

1. 嚥下後の呼気が増加
2. 咽頭期の持続時間の短縮
3. 嚥下後の吸気が増加
4. 咳反射の亢進

【問 15】 副雑音とその原因疾患の組み合わせで正しいのはどれか。

1. いびき音—間質性肺炎
2. 笛音—気管支喘息
3. 捻髪音—肺水腫
4. 水泡音—COPD

【問 16】 脳出血について誤っているのはどれか。

1. 主要な原因は高血圧である。
2. 頭部 CT で高吸収域がみられる。
3. 最も多いのは皮質下出血である。
4. 予防には生活習慣の改善が重要になる。

【問 17】 認知症の疾患別の特徴において正しいのはどれか。

1. レビー小体型認知症では食事をしたことを忘れやすい。
2. 前頭側頭葉変性型認知症ではマナーが欠如しやすい。
3. アルツハイマー型認知症では錯視が生じやすい。
4. 脳血管型認知症では過食が生じやすい。

【問 18】 食事場面でのアセスメントで誤っているのはどれか。

1. 口腔内に食物残渣が残りやすいため食欲低下を疑った。
2. 湿性嚙声を認めるため咽頭残留を疑った。
3. 咀嚼に時間を要しているため食塊形成不全を疑った。
4. 片側半分を食べ残すため半側空間無視を疑った。

【問 19】 小児の成長・発達で正しいのはどれか。

1. 原始反射は生後 3 ヶ月程度で消失する。
2. 離乳は生後 5～6 カ月に開始される。
3. 大泉門は生後 8 カ月で閉鎖する。
4. 乳歯は生えそろうと 28 本になる。

【問 20】 脳性麻痺について正しいのはどれか。

1. 痙攣型では不随意的な非共同性筋緊張を認める。
2. 脳の進行性病変に基づく。
3. 低緊張型では筋緊張の低下を認める。
4. 混合型の頻度は少ない。

【問 21】 脆弱性と呼ばれる状態はどれか。

1. ロコモティブ症候群
2. サルコペニア
3. アカラシア
4. フレイル

【問 22】 筋委縮性側索硬化症で誤っているのはどれか。

1. 運動ニューロン病である。
2. 認知機能障害は少ない。
3. 対症療法が主である。
4. 感覚神経や自律神経に障害がある。

【問 23】 頭頸部がんの特徴について正しいのはどれか。

1. 放射線治療の感受性が低い。
2. 最も頻度の高い組織型は扁平上皮がんである。
3. 外見上の変化は伴わない。
4. 嗅覚・味覚の障害を受けにくい。

【問 24】 頭頸部がんの放射線治療による嚥下障害で誤っているのはどれか。

1. 唾液分泌の低下がある。
2. 不顕性誤嚥のリスクは低い。
3. 晩期合併症として嚥下障害がみられることがある。
4. 舌や咽頭壁の筋力低下を認めることがある。

【問 25】 口腔カンジダ症について誤っているのはどれか。

1. カンジダ菌は常在菌である。
2. カンジダ性の義歯性口内炎は多い。
3. 偽膜性カンジダ症は除去ができない白色の苔が特徴的である。
4. 紅斑性カンジダ症では有痛性の発赤を認める。

【問 26】 気管カニューレについて正しいのはどれか。

1. 嚥出力が低下する。
2. カフを拡張させると誤嚥を防止することができる。
3. 呼吸は声門を通過する。
4. 吸引は 40～50kPa で行う。

【問 27】 経腸栄養について正しいのはどれか。

1. 消化管機能が保てている場合でも経静脈栄養が優先される。
2. 長期的な経腸栄養が予測される場合、経鼻経管栄養法が推奨される。
3. 胃瘻栄養法では定期的な交換が必要になる。
4. 経管栄養をしている場合の経口摂取は禁忌である。

【問 28】 高齢者の身体的特徴について誤っているのはどれか。

1. 細胞内液の減少
2. 糸球体濾過率の減少
3. 胃は萎縮性変化を起こし、筋緊張が低下する
4. 内臓脂肪の減少

【問 29】 舌咽神経が支配する筋はどれか。

1. 咀嚼筋
2. 咽頭括約筋
3. 外舌筋
4. 輪状咽頭筋

【問 30】 神経筋疾患において正しいのはどれか。

1. パーキンソン病では顕性誤嚥が多く自覚がある。
2. 進行性核上麻痺では上下や左右に眼が動かしにくいことが多い。
3. 多系統萎縮症は自己免疫疾患である。
4. 重症筋無力症は自立神経障害が多い。